五位組だより

２０２４年
（令和６年）
５月３０日

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区　五位組
題字・織田隆夫

新組長挨拶

西光寺　住職　養藤直哉

今年度より五位組の組長という重職を担うこととなり、身の引き締まる思いがしております。歴代の組長のように組全体を導いていくことができるだろうかという不安は大きいですが、自分のできることを諦めることなく続けていく中で何かしら組のためによいことを一つでも多く成し遂げられたらと思っております。

コロナ禍において、皆が自分や家族の命と健康を守るために、どう生活していけばよいのかを真剣に考えていました。今度は守ったその先の生き方について考えていかねばならないのではないかと思います。

私たち浄土真宗門徒の命は、やがてお浄土に参って「佛となる命」です。少しでも周りを照らし、あたためる「利他の命」です。

能登半島地震の被災者の方々が悲しい思いをされているのならば「あなたを思っている人が居ること」を伝えなければならないと思います。私たちの力で被災者の生活を支えることなど到底できませんが、ほんの少しお心を支えることはできるのではないでしょうか。

孤独感を感じているのは被災者の方だけではありません。私たちの身の回りにもいろいろなことで孤独感や孤立感を感じている方がいらっしゃると思います。

御法話を聞いている中で「私もそうだ」と思った時に、同じように頷いている人がいる。「ああ、この人も私と同じなのだ」と感じます。何度も顔を合わせるうちに、思い切って声をかけてみようかと思います。「どこから来られたがけ」と尋ねてみます。そうやって人は少しずつ寄り添っていくのだと思います。また、声をかけられずともお辞儀をするだけでも少しつながった気持ちになります。

浄土真宗でよく使われる「御同朋、御同行」という言葉は、みな佛になる命を生きる仲間であり、一緒にまことの道を生きましょうという言葉です。

浄土真宗の教えが「利他」の教えである限り、人は絶対に一人でいてはなりません。皆で心を合わせて教えを求める姿がなければならないのです。組内僧侶は「一緒にお寺にお参りにいかんけ」と周りの人を誘ってくださる方が一人でも多くなるように努めてまいります。

五位組の門信徒の皆さんが、聖人一流の連綿とお伝えいただいた教えの中から「佛とならせていただく命」をどう生きるべきか学ばせていただくことができるよう、組内僧侶はもちろんのこと、門信徒の皆様と力を合わせながら進んでまいりたいと思っております。

前組長挨拶

珉照寺　住職　山岸智史

２０１６年から８年間、五位組の組長をやらせていただきましたが、３月26日の組会で後任が正式に決まり、31日でもってその職務を終えました。本当に肩の荷が下りた感じです。その間、学ぶべき事もあり良い経験になったと思っています。

組長をさせていただいた８年間、出来た事、また出来なかった事もあります。これからは出来なかった事を実現できるよう、組のスタッフとして携わっていきたいと思います。

住職インタビュー

佐加野　光明寺　磯原正浩　さん

①最近ハマっていることは？

オーディオブックを聞くこと。オーディオブックとは小説やエッセイなど文学をスマホで聞ける音声コンテンツです。元から読書は必要な時にのみする程度で、1冊読み終えることは無いです。でもオーディオブックはスマホで小説やエッセイをラジオを聴くように音声で聞けるので車の運転中に聞きます。聞くことにハマると運転を終えてからも話の先が気になってしまい、部屋で聞くようになりました。

部屋専用に外部の音を遮断できるヘッドホンも購入してオーディオブックを聞く一人の時間にハマっています。

②お坊さんになってからの失敗談

葬儀や法事の時に法名を読み間違う事です。漢字が読めないというのではなく（読めない漢字もありますが）、経典読みの読み方と常用漢字の読み方の違いです。頭を宗教色においているときは法名の発音も経典読みでスラっとでてきますが、宗教色から離れているときに法名を読み上げると常用漢字の読み方で発音してしまいます。

法事が終わった後に家族の方から「先ほどの法名は…？」と聞かれると、読み方を間違えたかなと恥ずかしい思いをしています。

③新米僧侶の頃の自分に一言

諸行無常。初志貫徹。

④おすすめの本のジャンルはありますか？

ライトノベルです。若者に人気と聞いてハマってます。

能登半島地震支援　長光寺　住職　織田隆夫

1月1日午後4時10分、あの大地震から6ヶ月が経とうとしている。何もない日々の生活の中、もうあの恐怖は私たちの記憶から薄れている。しかしM7・6、最大震度7の巨大地震は奥能登の総てを破壊し、245人が亡くなり4万606人が避難生活となった。その後の余震は1550回を超え、人々は寒さと恐怖と不安の中で身動きひとつできない日々を送っていた。

その様な状況のなか五位組では、他団体の力を借りながら氷見や能登島・門前地区への水や物資の運搬から支援活動を開始した。当初より依頼のあった門前町諸岡地区避難所への炊き出しは2月下旬に第一陣を派遣することとなり、その後今日まで200人分6回の炊き出しを五位組の皆さんと行ってきた。

最初は話しかけても少しだけにこりと笑い「ありがとう」と言うだけで誰も今を話そうとはしない。それでも炊き出しの食事を求める人たちがいる。私たちもどの様に話しかけてよいのか戸惑いながらの支援である。

暖かくなってきたある日、花の苗を持って行き皆で植えた。やっと話ができた。しかし誰一人辛い顔を私たちには見せない、誰一人愚痴を言う人はいない。寄り添うことなど到底できないと強く感じた。

6月後半にはほとんどの避難所は解散する。仮設住宅に入所できる人、被災した家に帰る人、家族親戚を頼り門前を離れる人、いずれにせよまた新たな苦難の日々が始まる。

がれきの撤去や片付けも「自分でする」と手伝いを遠慮する。八世紀には能登国として栄えた奥能登特有の自負とプライドがあるのか何しろ我慢強い。特に奥能登は海に囲まれ海山の幸に恵まれ一国として充分に恵まれた土地であった。他所からの移住や移民の無かった土地柄なのだろうか、今も奥能登から出ていく人は多いが他からの入居者は少ない。

今後はどうすればよいのか手探りでの活動であるが、もう少し続けてみよう。総ての方々の心が豊かになれるまで。

お講の年間日程

平等講
一座　十四時～

初御講　一月二十五日　中止
報恩講　三月二十五日　教願寺
本山講　五月二十五日　善教寺
降誕会　六月二十一日　本正寺
本山講　八月二十五日　永念寺
助成会・追悼会
十一月二十五日　広済寺

二十五日講
一座　九時半又は十三時半～

初御講　三月二十八日　珉照寺
助成会　六月予定　西光寺
報恩講　十月予定　未定

両講合同夏期講座

日程　今夏予定
場所　未定
懇親会　未定
講師　未定
主催　平等講・二十五日講

祠堂経法座ご案内

各寺院の祠堂経法座の日程をお知らせします。　**※日程は変更になる場合があります。**

詳細は各寺院にお問い合わせください

佐加野　光明寺
三月十七日　朝　九時三十分
三月十八日　朝　九時三十分
三月十九日　朝　九時三十分
法話　高岡市伏木　**山名　一徳　師他**

笹川　広済寺
六月三日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
六月四日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市内島　**岡西　法英　師**

内島　教願寺
六月九日　昼　一時三十分
六月十日　朝　九時三十分
法話　高岡市伏木　**城野　至界　師他**

麻生谷　西光寺
六月二十一日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
六月二十二日　昼　〇時三十分
※二十二日は、**鐘楼堂落慶法要**
法話　氷見布施　**圓山　望　師**

上向田　浄永寺
六月二十三日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　福岡町大野　**新原　忠男　師**

石堤　長光寺
七月一日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
七月二日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　氷見市脇　**寺西　良夫　師他**

赤丸　性宗寺
七月七日　昼　一時三十分
法話　福岡町大野　**新原　忠男　師**

三日市　光源寺
七月十日　朝九時三十分　昼　一時三十分
法話　福岡町土屋　**山岸　智史　師**

辻　西福寺
七月下旬
法話　高岡市辻　**豊原　正靖　師**

立野　永念寺
八月三日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市笹川　**福田　慶隆　師**

山岸　珉照寺
八月六日　朝　十時　昼　一時三十分
法話　小矢部市興法寺　**立川　証　師**

四日市　浄明寺
秋の報恩講の際にお勤めします。

石堤　法善寺
秋の報恩講の際にお勤めします。

舞谷　永賢寺
秋の報恩講の際にお勤めします。

本保　本正寺
休止

黎明講座ご案内

各寺院の黎明講座の日程をお知らせします。

笹川　広済寺
七月三十一日　朝　五時三十分
八月一日　朝　五時三十分

石堤　長光寺
八月一日　朝　五時三十分
八月二日　朝　五時三十分

山岸　珉照寺
八月四日　朝　五時三十分
八月五日　朝　五時三十分
八月六日　朝　五時三十分

内島　教願寺
八月十三日　朝　六時
八月十四日　朝　六時
八月十五日　朝　六時

五位組　行事予定

第23回 五位組 夏休み子ども大会

日程　今夏予定
場所　五位組 川東寺院

蓮門会

テーマ「正信念仏偈の解説」
講師　岡西 法英 師
四月七日(日)　十五時　西光寺
五月五日(日)　十六時　浄明寺
六月二日(日)　十六時　教願寺
七月七日(日)　十七時　光明寺
十月六日(日)　十六時　広済寺
二〇二五(令和七)年
二月二日(日)　十五時　教願寺
※一回あたり千円での受講もできます。

能登半島地震 五位組災害支援活動 支援金協力のお願い

災害支援活動における支援金協力をお願いしております。お問い合わせは、五位組各寺院まで(募金箱あります)。
二〇二四年一月からの受付額
41万4，920円
ご支援ありがとうございます。

編集後記

一月一日の地震で、家の中から飛び出しました。その後、能登半島地震となり、多くの命とともに、穏やかな日常の生活が奪われました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

地震の恐ろしさを痛感しましたが、月日が経ち、春の催し物や桜やチューリップの花の便りのニュースを見て癒されています。

しかし、あの日の出来事は決して忘れません。これからも思いやりと助け合う気持ちを持ち続けます。

合掌

五位組だより　第28号　2024年（令和6年）5月30日発行
発行　五位組　／　編集・制作　五位組門徒推進員協議会